

Nコン2019 中学校の部 課題曲(混声三部/女声三部合唱)

「君の隣にいたいから」 編曲 加藤 昌則さん (作曲家・ピアニスト)

★ピアノについて★

Q 今回の課題曲のピアノ(伴奏)を担当する人へのメッセージ

加藤: コーラスでピアノが伴っている場合ってというのは、ピアノとコーラスで1つの音楽を作っていくので、やっぱりどうしてもピアノも1つの重要な要素になるわけですよ。

特に今回なんかはビートが必要で、その場合、ドラムのような打撃音といいますか、ああいったものはピアノが担当せざるを得ないわけですよ。そうなってくると、あるところまでのレベルっていうか、要求っていうのはどうしてもピアノにしなければならないとなって…、

(できるだけ)やさしくしたい、だけど、ここまでは必要だっていうところのバランスをどう取るかっていうことを考えて、ぎりぎりここまでは(ピアノに)頑張ってもらいたいっていうふうに書いたんですけど、先生とか大人の人が弾いてくれる学校もあるかもしれませんが、同じ中学生が演奏する場合は、難しいなと思っても、ちょっと頑張ってもらって、頑張ったら、これ(この課題曲)に限らず、いろんなポップスの曲のビートの効いたピアノっていうのが確実にうまく弾けるようになるはずなので…。ピアノの子も頑張った分、頑張ったご褒美があるような、そういうエチュード的な要素も少し入れてはあるので、ぜひ頑張って弾いてもらいたいと思いますし、不可能はないので、ぜひ目指してほしいなと思います。

Q ピアノの練習方法について

加藤: ピアノを弾く時に、特にビートの効いたものの時って、どうしても、下の弾くほうに意識がいくんですけど、そうじゃなくて、弾いたあとに、離すほうに少し着目すると、鋭い音が出せるんです。パンっていう。そのパンっていう音がドラムのタッっていうのと似た音色になるんですね。

そういうふだん意識しない、音を弾いたあとに指を上げるっていうところを少し注目して練習してみると、鋭い音みたいなとか、ビート感みたいなものは出るかなと思います。難しいところはちょっとゆっくりめに練習して、メトロノームを上げるっていう、ふだんあるピアノの練習の方法をとるのがいいのかなと思います。

Q ピアノを担当する中学生に向けてのメッセージ

加藤: 頑張ったら頑張ただけの頑張った世界があると思うので、僕もずっとそれを結局、体感してきたから、大変なところもあるかもしれないですけど、ぜひ負けずに頑張ってほしいなと思います。